

## 第4回新・文明の旅 プログラム（新・文明の旅特講 a 授業） 「雅楽公演」「OB・OG講話会」

2021年4月25日13:30~15:00、文京学院大学本郷キャンパス仁愛ホールにて、第4回新・文明の旅プログラム（新・文明の旅特講 a 授業）「雅楽公演」「OB・OG講話会」が開催されました。第1回新・文明の旅日本文化教育プログラム「和楽器の魅力を探る」、第2回新文明の旅日本文化教育プログラム「和楽器の魅力を探る」～邦楽囃子の響き～に引き続き、日本文化の源泉を学ぶ貴重な機会となりました。第1回で演奏を披露いただいた尺八奏者の津上弘道氏に、第2回に引き続きコーディネータをお務めいただき、新・文明の旅特講義 a 受講生および理事長先生、学長先生を始め、同授業に関わっている教職員が演奏を体感しました。

その後、第1回と第2回の新・文明の旅に参加したOB・OGの講話会が行われ、第1回に参加したOB日暮武蔵（ひぐらしむさし）さんと第2回に参加したOG三幣晃代（さんぺいあきよ）さんの両者がそれぞれ、「旅」に参加した際の体験について、さらには卒業後その体験がどのように自らの生活に影響を与えたかについてお話しいただきました。

「雅楽公演」ですが、今回取り上げたのは、中国の雅楽の文脈を引き継ぎながら、日本独自の発展を遂げて現在に至っている「雅楽」です。この「雅楽」は多くの日本音楽（邦楽）のルーツにもなっており、現在われわれが「和」の音楽としてイメージする箏や琵琶の音楽も、そもそもはこの「雅楽」がもとになっているとのこと。さらに江戸期以降に普及した三味線の源泉にも、この「雅楽」における琵琶があるとのこと。

### 第1部 「雅楽公演」

#### （出演者）

瀨瀬 拓也（こうけつ たくや）様 龍笛奏者

三浦 元則（みうらもとのり）様 箏奏者

大塚 惇平（おおつかじゅんぺい）様 笙奏者

伊崎 善之（いざきよしゆき）様 龍笛奏者

音無 史哉（おとなしふみや）様 笙奏者

（コーディネータ） 「津上 弘道（つがみ こうどう）様 琴古流尺八演奏家

### プログラム内容

#### ① 「雅楽」五常楽（ごしょうらく）

人間が守るべき徳（仁・義・礼・智・信）五常（ごしょう）を兼ね備えた曲になります。8分間のほどの短い曲です。比較的抑揚が少ないものとなります。

#### ② 瀨瀬拓也様による「雅楽」や「楽器」の解説

「雅楽」五常楽の説明に続き、各「楽器」の説明がおこなわれました。「楽琵琶（がくびわ）」、「楽箏（がくそう）」、「笙（しょう）」、「箏（しちりき）」、「龍笛（りゅうてき）」、以上5つの説明がおこなわれました。

#### ③ 「越殿楽残楽（えてんらくのこりがく）」

「越殿楽（えてんらく）」は日常的に比較的よく聴くことの多い「雅楽」です。神社等で耳にすることが多いものです。また「残楽（のこりがく）」とは、徐々に演奏している楽器が減っていくとい

う形式のものになります。

#### ④ 「嘉辰（かしん）」

漢詩に音色をつけながら楽しむ曲になります。「龍笛」と「笙」が伴奏を担当し、その他の奏者が唄を担当することになります。平安以降の人びとが、かつて貴族が楽しんだ曲として親しんだ曲です。

#### ⑤ 「陪臚（ばいろ）」

かつて、東南アジアにあった林邑国（りんゆうこく）でつくられた林邑楽（りんゆうがく）の1曲になります。2拍子と4拍子が連続するリズムに特徴がある、テンポの良い曲です。新・文明の旅で東南アジアを訪問した際に、同様の曲調やリズムに出会えるかも、ということで、今回この曲を演奏することにしました。

以上4曲、瀬瀬様による丁寧で分かりやすい説明とともにご披露いただき、日本の音楽のルーツともいえる「雅楽」について、より親しみを感じることができるようになりました。瀬瀬様もおっしゃっていましたが、今回の「旅」で現地を訪れたとき、この「雅楽」のルーツがあるのではないか、注意深くみていきたいと思います。



## 第2部「OB・OG講話会」

- (1) 第2回・3回参加者 三幣晃代（さんぺいあきよ）氏（東京医科歯科大学大学院生）  
ポーランド・リトアニア・ラトビア派遣（保健医療技術学部臨床検査学科卒業）

### 講話「新・文明の旅を通して得られたもの」

第2回の新・文明の旅を履修した動機としては、訪問対象国に大変に関心があったからです。また第3回目の授業も聴講生として参加しましたが、それは自身の成長度や専門性を確認したかったことや、後輩の方々と情報共有をしたかったからです。当時の授業内容としては、他学部の学生とのディスカッションや訪問国に関連する国内のさまざまな施設等を訪問したことが印象に残っています。

授業を通して学んだことは、1) 対象国を理解しさらに日本を再発見する、2) コミュニケーショ

ン能力の重要性、以上2点です。とくに2)において重要なのは、コミュニケーション相手について事前に下調べをすること、そして自身の専門性をきわめていこうとすること、にあると思いました。

新・文明の旅に2回参加し体験できたことで、現在の学業に活着ていることとして、多様な人びととコミュニケーションをとることができるようになった、ということがあります。多様な考え方が理解できるようになり、現在医療関係の分野で研究を進めていますが、いわゆるチーム医療を重視しようという考え方にもつながってきています。

さらに、新・文明の旅を「発信」してほしいと思っています。大学最大級のイベントを、世の中のより多くの方々に理解していただけるよう活動して欲しいと思います。



(2) 第1回参加者 日暮武蔵(ひぐらしむさし)氏(株式会社PIA)  
トルコ・ブルガリア・ルーマニア派遣(経営学部卒業)

講話「文明の旅終了後の8年間～予測不可能な世界を生き抜くために必要な事～」

新・文明の旅の説明はさきほどの三幣さんがおこなっていただいているので、その後の話についておもに焦点を当てていきたいと思っています。新・文明の旅の体験は、自身のその後の人生を大きく変えた体験になっていると思います。海外に目を向けることができるようになり、卒業後も就職することなく、フィリピンに語学留学をおこなうことになりました。その後語学学校でスタッフとして働く機会を得ることができ、マネジャーも経験させていただきました。ただ急遽日本に帰国することになり、2019年に自身の会社を立ち上げ、フィリピンから英語の先生を招聘する体制が整えることができたものの、2020年のコロナ禍によって会社の売上もなくなってしまいました。

その際に2つの選択肢を考えました。1つはコロナが収まるまで待って、当初想定した事業を続ける、もう1つは新たな事業、すなわちオンラインの英会話学習サービスを立ち上げるというものでした。そして2つめの選択肢、すなわち新たな体験をするを選びました。始めのうちはお客さんが集まらなかったものの、現在は多くのフィリピン人の先生を現地で雇用することができるようになるまでになっています。このことを通じて、大きな気づきを得ること

ができたように思います。

よくよく考えてみると、これまで多くの選択肢のいずれかを選んできたように思います。そして自身にとって学生時代の新・文明の旅の経験こそが、すなわち、そもそも「新しい経験」を選ぶ体験の始まりだったように思います。そしてこの新たな体験を選ぶことが、まさに現在のような「予測不可能な世界を生き抜くために必要なこと」であるように思います。ぜひ皆さんも、この「旅」の体験を通じて、「新たな経験」を選ぶことの重要性を実感してほしいと思います。



#### (質疑応答)

受講生①：グループワークでうまくいかなかったこと、そしてその際にどのように対応したかについて。

三幣氏：自身はあまりうまくいかなかったことはなかったと思いますが、下調べが重要であるということと、自身の考えを発信することが重要であると思います。

日暮氏：あまり自身の専門性を問われることはなかったと思います。互いにアイデアを披露することが多いので、ご自身の意見を述べていただければと思います。

受講生②：自身の専門分野外の学習をどのようにしていったらよいのか、について。

三幣氏：時間関係なく集中して下調べをした記憶があります。学科で実習があるときなどは、事前学習が遅れたことがあったが、授業の合間を活用してリカバリーしていました。

日暮氏：パワーポイントスライドの作り方を教わりに、情報センターに通っていたりしました。集中してパソコンに向かうこともしばしばありました。またフェイスブックをプレゼンテーションのテーマに挙げていましたが、実際にフェイスブックを使って勉強していました。

第1部、第2部を通じて、新・文明の旅の趣旨や活動内容が受講学生や教職員にとってもよく伝わったのではないかと思います。とりわけこれから受講する学生の皆さんにとって、OBやOGの率直なお話しは、心に響くものがあったのではないのでしょうか。今後は今回の授業での体験をもとに、学生および教職員が一つのチームとなって、内容の濃いプロジェクトにしていこうと思いました。

(田嶋 英行)